

VI. 中南米

キューバ

<2006年の注目すべきポイント>

2006年4月にキューバ政府はカナダ Sherritt International 社と共同で、Moa 鉱山・選鉱プラントの拡張工事(33,000t/年→49,000t/年)を開始した(2008年半ば完成予定)。一方、2006年7月に米国政府は以前より禁輸措置を採っていたキューバ産ニッケルに対する取締強化を発表した。また、2007年2月の報道によると、ベネズエラから資金提供を受けて、閉鎖されていた旧ソ連製ニッケルプラントの操業を再開する計画がある。

1. 非鉄金属一般概況

(1) 非鉄金属の一般概況

キューバの主要金属鉱物資源は、ラテライト型鉱床中のニッケル及びコバルトで、両者とも世界第2位の埋蔵量を有する。一方、ニッケル及びコバルトの生産は、1959年のキューバ革命以降、東側諸国の技術・資本で開発・生産が開始されたが、埋蔵量に比べて規模が小さく、2006年のニッケル鉱石生産量は世界第6位、同地金生産量は世界第10位に留まっている。

キューバ政府は、1990年以降の東側経済圏の崩壊を機に、西側諸国資本によるニッケル鉱業の活性化を図ることとし、1993年以降、外資への有望鉱区公開、外資導入促進等のための鉱業法改正、製錬所への外資導入・合併企業設立を行い、欧州・カナダ・豪州等の企業による採鉱活動が活発化した。最近では、中国企業も参入の動きを見せている。

キューバのGDPに占める鉱業部門の割合は、1.6%(2003年)とさほど大きくない(2004年以降未発表)。

(2) 2006年の主な動き

① カナダ Sherritt International 社との共同事業

2006年4月、キューバニッケル公社とカナダのシェリット(Sherritt International Corporation)社は、両社の合弁事業である Moa 鉱山の拡張工事に着手したと発表した。この拡張工事は2005年3月の両社の合意に基づき、

ミックスサルファイド(Ni品位54%、Co品位6%)の生産能力を33千t/年から49千t/年に増強するためのものである。

② 米国の経済制裁

革命後のキューバと40年以上に亘る対立関係にある米国は、キューバ資産管理規則に基づき、キューバ産ニッケル含有製品の輸入を禁止している。2006年7月にブッシュ政権は、キューバからのニッケル輸出を厳重に取り締まる方針を改めて発表した。これは政府任命委員会のひとつでキューバの人的援助を行うことを目的としたクループ、“Commission for Assistance to a Free Cuba”の勧告を受け入れたものである。同グループは、カストロ政権の得る外貨所得の半分近くがニッケルの輸出によるものであり、これがカストロ政権の保全及び反米運動の資金源になっているとし、キューバからのニッケル(及びコバルト)の禁輸措置を強化徹底するためのタスクフォース機関の立ち上げを勧告している。

③ 中国へのニッケル輸出

2006年11月の中国発の情報によると、キューバニッケル公社はオランダへのニッケル輸出を減らし、中国への輸出量を増加する計画を持っている。オランダは現在、キューバとニッケル輸出量の削減について話し合い中であるが、輸出削減数量については未だ決まっていない。2005年のキューバのオランダへのニッケル輸

出量は、キューバの全ニッケル輸出量の半分を占め、輸出額は10億US\$である。

なお、中国関連では、2004年11月に胡錦濤国家主席とカストロ議長が、探鉱やプラント建設の共同事業等に関する覚書に署名したが、その後の動きは明らかにされていない。

④ ニッケル産業への投資計画

2007年2月にキューバ政府は生産力増強及びエネルギー効率の向上を目的として、ニッケル産業をはじめとする基幹産業に300百万US\$の投資を行う予定であると発表した。この投資によって、オルギン(Holguin)県を中心に立地するニッケル産業を近代化し、2008年にニッケル年産能力を120,000tに拡大するとしている。

⑤ ベネズエラとのニッケル協定締結

2007年2月に、ベネズエラとキューバがニッケル協定に署名したと報じられた。この両国

の協定では、ベネズエラが521百万US\$を投資し、1991年のソ連邦崩壊に伴って操業が停止されたキューバ国内のソ連製ニッケルプラント(生産能力:68,000t/年)を活用してニッケル生産を開始することとなっている。

2. 鉱業政策の主な動き

2006年は特段の動きなし。

3. 主要鉱産物の生産・輸入・消費・輸出動向

(1) ニッケル生産量

ニッケル鉱石の生産量は2005年の72.0千tから2006年は74.0千tへと微増、2006年のニッケル地金の生産量は前年と同じく42.0千tであった。

(2) 鉱産物輸出量

ニッケル・コバルトを合わせた2006年の年間輸出額は約20億\$との報道がある。

表1 キューバのニッケル生産量 (金属量:千t)

鉱種	2005年	2006年			
		キューバ(A)	世界(B)	(A)/(B)	世界ランク
ニッケル鉱石	72.0	74.0	1,416.9	5.2%	6位
ニッケル地金	42.0	42.0	1,330.1	3.2%	10位

(出典)World Metal Statistics April 2007

4. 鉱山会社活動状況

国営企業であるGeneral Nickel Co. S.A.がニカロ(Nicar)鉱山とプンタ・ゴルダ(Punta

Gorda)鉱山の操業を行っている。また、同社とカナダ・シュリット社が合弁でモア(Moa)鉱山の操業を行っている。

5. 鉱山・製錬所状況

	鉱山・製錬所名	生産法	現状生産量	将来生産量(増産計画)	時期	製品	資本
既存	ニコ(RRL)	アンモニア・リーチング	13千t/年	効率化による増産	3~5年後	酸化Ni(Ni90%)	Cuba 100%
	プンタゴルダ(ECG)	アンモニア・リーチング	30千t/年	効率化による増産		酸化Ni(Ni90%)	Cuba 100%
	Moa Bay	PAL	33千t/年	50千t/年		ミックスサルファイト [※] (Ni54%, Co6%)	Cuba 50%、加(シュリット)50%
新規	ラス・カマリカス	FeNi	—	23千t/年		フェロニッケル	
	サン・フェリペ	PAL	—	—	—	—	
合計			75千t/年	150千t/年			

(出典:2005年3月、日本官民合同ニッケル調査団プレス発表資料)

6. 我が国との関係

キューバから日本への酸化ニッケルの輸出は2003年から開始された。輸出量(額)は2003年21千t、2004年84千t(106百万円)、2005年231千t(333百万円)と順調に増加し、2005年

にはキューバの対日輸出額の約10%を占めるまでになった。しかしながら、2006年の輸出量(額)は21千t(26百万円)に留まり、大幅な減少を記録した。

(2007.5.31/メキシコ事務所 小島 和浩)